

安心の番人

獣医師が足りない

⑤

名古屋のベッドタウン、愛知県東浦町にある「もねペットクリニック」。伊藤嘉浩院長(47)の休みは「週半日くらいしかとれない。診察時間が終わる午後8時直前、大型犬の飼い主が飛び込んできた。「耳が荒れていますね」。伊藤さんは診療台に乗せた犬の耳を薬剤で治療する。飼い主の女性(37)は「車で20分かけて来ました」と不安げに話した。

獣医師は自分がだけ。入院中のペットのケアのため、週の半分は病院に布団を敷いて泊まる。真夜中の電話で起こされることがある。伊藤さんは「ペットは家族と同じ。心配にな

るもの分かる」と語る。

一般に「公務員より仕事の負担が軽い」と

見られがちだが、伊藤さんは「大きな間違い。仕事の実態を学生たち

に伝えるため、初の獣

医師専門就職雑誌を今

月月下旬に創刊する。

◆ ◆

体力・経営 目いつぱい



夜、入院中のペットを診察する伊藤嘉浩院長—愛知県東浦町の「もねペットクリニック」で、河内敏康撮影

08年初め、鹿児島県に獣医師の人材確保を

目指すプロジェクトチームができた。07年度

の採用試験で、9人の

募集に対し3人しか採用できなかつたことが

きっかけだ。

ペット病院の開業コンサルタント、西川芳

彦さんは「売り上げから薬代などを除けば、大きな収入ではない。人件費を抑えるため孤

軍奮闘する獣医師も多
い。人気の割に体力面、
経済面ともに非常に厳
しい職場だ」と分析。

試験の一般教養試験を
免除した。08年度は18
人の募集に34人の応募
があり、17人が入院。

会に、3年と5ヶ月。
の全員を出席させる。
から公務員の就職説明
会に、3年と5ヶ月。
の全員を出席させる。

5月に開かれた説明会

には計35自治体が参

加。食の安全など重要

の畜産業を守るために

と、給与を就職直後の

10年間は月3万円、以

後15年目まで2万5千

00～5000円上乗

と、給与を就職直後の

1